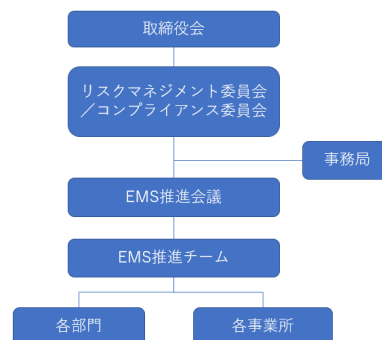


TCFD に基づく情報開示

NSW では、気候変動問題は事業継続に影響を及ぼす重要課題のひとつと位置づけ、グループ全体で気候変動対策に積極的に取り組んでいます。TCFD フレームワークに沿って、気候変動が当社グループの事業に与えるリスク・機会を分析して経営戦略・リスクマネジメントに反映するとともに、関連する情報の適切な開示を行い、社会全体の脱炭素化に貢献し企業価値の更なる向上を図ります。

ガバナンス

NSW では、NSW 環境マネジメントシステムにおいて、気候変動をはじめとする環境問題に関する活動を定めています。環境管理責任者、環境推進チームで構成する「EMS 推進会議」を開催し、気候変動等に関する情報共有、審議、報告を行い環境に関する対応策を全社レベルで推進しています。また「リスクマネジメント委員会・コンプライアンス委員会」において事業インパクトの影響および対応策の検討を全社レベルで行っています。



戦略

NSW では、2050 年を見据えた気候変動を考慮した 2.0°C シナリオ分析と、現在の温暖化対策を上回る対策がとられない場合の 4°C シナリオを前提に、シナリオ分析を実施しています。その結果、

- ・気候変動の対策に貢献する IT サービスの提供は事業成長の機会をもたらし、
- ・自社のデータセンター事業では、オペレーションにおける運用コスト等に影響を与えます。

【リスクと機会】

移行リスク	内容
政策と法規制	低炭素社会・脱炭素社会を目指すための取り組み強化に伴い、温室効果ガスの排出抑制に伴う、対応コスト増加のリスク

技術	技術革新による省エネ性能で既存設備の効率が悪くなった場合、投資未回収が生じるリスク
市場	気候変動リスクに配慮した IT サービスに対する需要を満たせなかった場合、ビジネス機会を逸失するリスク
評判	環境意識、気候変動リスクの対応でネガティブな評価に伴い、人材確保の低下が生じるリスク
物理リスク	内容
急性的	台風や集中豪雨に伴う業務活動の停滞リスク
慢性的	長期的な高温により、設備更新や電力消費に伴う財務的リスク
機会	内容
資源効率	省エネ活動や業務を効率化による炭素排出量削減
エネルギー源	事業活動に利用する化石燃料を利用した電力エネルギー源を、再生可能エネルギーを利用することで、炭素排出量削減
製品およびサービス	気候変動の緩和に貢献するサービス（エッジ AI ソリューション、リアルタイム温度管理を可能にする IoT ソリューション等）の提供による売上増
市場	低炭素社会・脱炭素社会の進行に伴って、気候変動対策に貢献する新たな IT サービス市場の機会獲得（AI 活用、5G に関連した業務効率の向上等）
レジリエンス	気候変動リスクを適切に管理し収益の向上およびサプライチェーンの信頼性向上

リスク管理

NSW では、リスクマネジメント体制において、リスクマネジメント委員会・コンプライアンス委員会を設置し、気候変動関連を含む全社のリスクの識別・評価・管理を定期的実施し、同委員会の結果は取締役会に報告されています。

また、ISO14001 環境マネジメントシステムに準拠した、NSW 環境マネジメントシステムを構築しており、EMS 推進会議では、気候変動による事業リスクおよび機会や対策を共有し、進捗管理を行っています。

指標と目標

NSW は、気候変動関連の指標として GHG 排出量を管理し、カーボンニュートラルを目指すとともに、2029 年度(2030 年 3 月末)までの Scope1 および Scope 2 の中間目標を設定しました。

項目	目標
2030 年 Scope1+Scope2	2013 年度比 50%削減
2050 年 Scope1+Scope2	実質 0 (ネットゼロ)

GHG 排出量 (Scope1+Scope2)

年度	GHG 排出量 (t)	年度	GHG 排出量 (t)
2013	14,240	2018	9,636
2014	13,278	2019	9,279
2015	12,022	2020	9,067
2016	11,175	2021	9,297
2017	9,729		